

福井県高P連 会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会
 (福井県生活学習館「ユニー・アイふくい」内) 生島直樹
 URL: <http://koupren-fukui.gr.jp/>



令和7年度北信越地区高P連研究大会福井大会アトラクション(武生商工高校吹奏楽部)

福井県高P連研究大会

令和七年度県高P連研究大会が十一月一日(土)ホテルフジタ福井で一三四名が参加して開催されました。開会式では、生島直樹会長が「講演会や改正道路交通法の内容を踏まえ、守るべきものは何か、また、大切なものを守るために私たちは何をすべきかを今一度一緒に考えたい。」と挨拶されました。



生島直樹高P連会長

続いて、教育庁高校教育課の渡邊本樹高校教育課長は、中教審の次期学習指導要領に向けた論点整理を踏まえ、本県はその方向性を先取りし、すでに各校で探究的な学びや、地域との協働活動に積極的に取り組んでいると述べられました。また、これらの取組みについて更に深化させていくことや、各校の魅力化を高めていくことや、各校の方策を紹介され、今後も、生徒の主体的な学びを応援するとともに、魅力的な高校となるよう支援していくと挨拶されました。



渡邊本樹高校教育課長

また、福井県高等学校校長協会会長の山本寛藤島高校校長は、生徒の生命を最優先とするために、来年度からヘルメット着用を自転車通学の必須条件にするという方針について触れられま

した。具体的な数字を示しながらヘルメット着用の大切さを話され、大きな事故につながるないように保護者にも協力を求められました。



山本寛校長協会会長

開会式の後、「交通事故被害者遺族となつて十二歳で旅立った息子とともに」と題して、福井被害者支援センター事務局長の宮地美貴子氏より講演をいただきました。

宮地氏は、平成十四年にお子様を交通事故で亡くされました。事故当日の「いつてきます」からお亡くなりになるまでの状況やご家族の心情等をお伝えいただき、我々保護者にとってかけがえのない子どもの生命の尊さを考えさせられる機会をいただきました。

言葉では表すことができない喪失感に苛まれ、交通事故現場を含めた生活圏内ですら満足に行き来できない状況におかれていた中で、「交通事故がこれ以上起きないように」との思いから、事故現場を調べられ、通行車両への安全運転の呼びかけ、信号機の設定などの活動へと繋がっていかれました。

また、十五年にわたり県内外の多くの学校で「命の尊さを学ぶ教室」の講師を務められています。生徒達は多感な年齢であるため、どう受け取ってくれるか不安もあったとのことでしたが、



講演講師 宮地美貴子氏

真剣な表情で傾聴し、心にしっかりと留めてもらったことが、感想文等で確認できたことと仰っていました。

「命のメッセージ展」についてもご紹介いただきました。これは、様々な事件や交通事故、いじめによる自殺などで、理不尽に命を断ち切られた人たちが等身大のパネルとなって展示されているのです。「悲惨な事件や事故は決して他人事ではなく、生命はかけがえのないもの」ということを伝えるメッセージャーとして展示され、全国で命の大切さを訴えているとのこと。同氏のご息もメッセンジャーとして参加されています。

「生命」という言葉についても触れられており、命が生まれるという解釈により、「メッセンジャー」として、新たな命として生まれており、そこから命を生かすということ、理不尽な死を決して無駄にしない、亡くなった人の分まで精一杯生きる」という想いが込められているとのこと。最後に、福井被害者支援センターの設立二十周年を迎えるにあたり、福井県出身のシンガーソングライターであるヒナタカコ氏に作曲を依頼した「こ

ころの声」を聴き、犯罪の被害に遭われた方だけでなく、何かしら生きづらさを抱える人たちにも、きつと支えている人は周りにいて、希望も持てる未来があるということを感じさせていただくことができました。続いて、福井県警察本部交通企画課の鈴木貴紀氏が、「自転車の交通事故発生状況と改正道路交通法（自転車の交通反則通告制度）」について、お話しされました。令和八年度開始の自動車の交通反則通告制度、いわゆる青キップの適用について説明されました。まず、県内の自転車の交通事故発生状況について、前年比で人身事故件数、死亡者数ともに増加していることを報告されました。また、本県の自転車の交通事故が二十歳未満の割合が高いこと、出会い頭の事故が多いことも取り上げておられました。このような状況が全国でも見られ、より迅速に対応していくために、青キップを適用していくことになったそうです。特に「ながらスマホ」、「自転車装置性能不良」等は、反則金による取締りの対象となる可能性が高いことを強調され、家族等への周知を呼びかけられました。



県警本部交通企画課 鈴木貴紀氏

小森会長は、小森氏の父親、祖母から三代に亘ってPTAに携われているとのことであり大変頭の下がる思いを覚えました。



三国高等学校

実践発表 福井県立三国高等学校PTA 「心高かれ、持続可能な組織を目指して」

昭和三十二年から活動を行っており、現在は会報誌の作成や学校祭での模擬店出店等の活動を行っているとのことでした。その後、組織の現状や課題などについての説明がありました。従来の常任委員会と専門委員会は併せて四十六名で構成、そのうち専門委員会は三十六名だったそうです。そこで、専門委員会内の進路・健全育成委員会を廃止、役割を常任委員会に移し、スリム化を図ったそうですが、常任委員の負担が高まったため、常任委員を増員、現在の人数での運営に至ったとのことでした。また、グループLINEやGoogleフォームなどを活用した取り組みが進められており、貴重なお話をいただきました。

砂田竜一PTA会長さんに発表をいただきました。学校の概要や学科の紹介、猛暑対応の室内体育祭などの取り組みを紹介されました。PTAについては、役員会と、会報発行と学校清掃支援を担当する企画総務委員会・進路説明会と連携する進路支援委員会・学校祭でバザーを開催する生徒支援委員会の三常任委員会構成されているとのことでした。体育祭時のペットボトル配布が生徒に大変好評であり、やはり、目に見える支援は生徒たちにとって分かりやすく、PTAの存在価値を高めるものと感じました。また、印象的であった活動として、「中学生保護者説明会」がありました。PTA役員もこの説明会に参加し、保護者目線で通学するわが子の様子や学校の魅力を伝えられるとのこと。で、中学生の保護者にとって有用なイベントであると感じました。最後に、砂田会長は「生徒数の減少や、学校行事の変化とともに、PTAに対する需要も変化している。生徒達のために何ができるのかについて、学校の意向を踏まえた上で取り組んでいきたい」と話されました。



武生東高等学校

福井県立武生東高等学校PTA 「時の流れに身をまかせ」

砂田竜一PTA会長さんに発表をいただきました。学校の概要や学科の紹介、猛暑対応の室内体育祭などの取り組みを紹介されました。PTAについては、役員会と、会報発行と学校清掃支援を担当する企画総務委員会・進路説明会と連携する進路支援委員会・学校祭でバザーを開催する生徒支援委員会の三常任委員会構成されているとのことでした。体育祭時のペットボトル配布が生徒に大変好評であり、やはり、目に見える支援は生徒たちにとって分かりやすく、PTAの存在価値を高めるものと感じました。また、印象的であった活動として、「中学生保護者説明会」がありました。PTA役員もこの説明会に参加し、保護者目線で通学するわが子の様子や学校の魅力を伝えられるとのこと。で、中学生の保護者にとって有用なイベントであると感じました。最後に、砂田会長は「生徒数の減少や、学校行事の変化とともに、PTAに対する需要も変化している。生徒達のために何ができるのかについて、学校の意向を踏まえた上で取り組んでいきたい」と話されました。

北信越高P連福井大会

「輝きある未来への継承」

〜共に生き、共に育つ〜

七月十一日(金)、十二日(土)の二日間、令和七年度北信越地区高等学校PTA連合会研究大会福井大会が、北信越各県から九六一名が集い、本県からも四四四名が参加して、フェニックスプラザにて開催されました。五年に一度の福井開催ということで、実行委員会を中心に約一年前から準備に臨みました。

一日目の開会式では、生島直樹北信越地区高P連会長の挨拶の後、表彰状贈呈が行われ、三十七名(本県からは七名)が表彰されました。その後、杉本達治福井県知事及び西行茂福井市長から祝辞を頂きました。



開会式 生島直樹実行委員長挨拶

福井県の栄えある受賞者

田中 宏直	県高P連理事
大野 高P連	会長
川口 宜亮	県高P連理事
丹生 高P連	会長
大江 康司	県高P連理事
若狭 高P連	会長
山田 真也	県高P連監事
足羽 高P連	会長
児玉 勝	県高P連監事
武生 高P連	会長
高橋 宏介	鯖江高P連会長
丸岡 高P連	会長
中出 奈津枝	丸岡高P連会長

(役職は令和六年度時)



表彰式

その後の歓迎アトラクションでは、武生商工高等学校吹奏楽部による、歌って踊って観客も巻き込むファンキーなパフォーマンスが行われ、参加者を楽しませてくれました。



アトラクション 武生商工高校吹奏楽部

そして全体会へと移り、各県の発表がありました。

- 石川県立羽咋高等学校
「絆」で繋ぐ、復興への道
〜羽咋高校と地域が共に創る未来〜
- 富山県立入善高等学校
入善高校におけるPTA活動の実践
〜コロナ後の活動について〜
- 新潟県立柏崎常盤高等学校
はばたけ、ときめけ、PTA活動
- 長野県上田千曲高等学校
長野県上田千曲高等学校の
教育とPTA活動
- 福井県立武生商工高等学校
統合から未来へ
〜新しいPTAのかたちを求めて〜

福井県代表の武生商工高校は、令和二年度に武生商業高校と武生工業高校



実践発表

るための対話と試行錯誤についても説明がありました。今、学校再編が各県の課題でもあり、各県の参加者からも質問が飛び交いました。また、金津高等学校と高志高等学校、敦賀工業高等学校の紙上での発表もありました。

夜には教育懇談会が二会場に分かれて開催され、参加者の意見交換や交流が活発に行われました。

大会二日目は、福井工業大学スポーツ健康科学部教授・元日本代表バレーボールチーム監督の中垣内祐一氏を迎え、「選手強化の最前線〜男子バレーのケース〜」と題した講演がありました。実例を交え、非常に貴重なお話をしました。

閉会式では次年度開催の吉村安司石川県高P連会長の挨拶があり、石川での再会を誓い閉会しました。

(大野高校PTA会長 田中宏直)

全国高P連三重大会

「出会いはいじまる常若のくに」

「集い、思想い、継なぐ」 三つの重なる明日への力」

八月二十一日(木)、二十二日(金)に第七十四回全国高等学校PTA連合会大会2025三重大会が、津市産業スポーツセンター(日硝ハイウェイアリーナ、メッセウイングNHW)にて開催されました。全国から約六五〇〇名、福井県からは二十五校一〇四名が参加しました。

大会第一日目は、四日市商業高校ギターマンドリンド部の美しい演奏に迎えられる後、開会行事と表彰式が行われました。全国高P連会長表彰では、本県から個人表彰二名、団体表彰二校、



開会式



分科会

役員等表彰一名が表彰されました。

その後、四つの会場に分かれて分科会がスタートし、それぞれ基調講演やパネルディスカッションなどが行われました。「子育て・そして親育ち」をテーマにした第一分科会では、二つの講演を通じて子育てや親の在り方について考えを深めることができました。

第二分科会では「実力発揮のコツ」と題して無名公立高校二校を甲子園に導いた松葉健司氏の講演とミニディスカッションを通じて、子供たちの能力を発揮させるためにどうすればよいか考えさせられました。第三分科会は「AI時代におけるWell-Beingなキャリアデザイン」をテーマに講演とパネルディスカッションがあり、これからの時代におけるキャリアデザインの在り方の大きなヒントをいただきました。第四分科会は「Let's PTA」をテー

マに、レモンさん(山本シュウさん)の講演があり、難しい時代を迎えているPTA活動にどのように取り組んでいくか、活動に対する疑問などに対して前向きな提言をいただき元気をもらえた時間でした。



記念講演講師 中島伸子氏

目には、ドラマ「高校生レストラン」のモデルとなった相可高校食物調理科の活動が動画で紹介されました。地域を担い、世界で活躍する食のプロフェッショナルを目指す生徒たちの一生懸命な姿に感動しました。

記念講演は、「尊厳は明日の力」をテーマに、井村屋グループ株式会社COB兼会長の中島伸子氏のお話がありました。北陸トンネル列車火災事故で、同じ車両に乗りしていた人から避難を託された子どもの命を助けられなかった後悔と無念、事故の影響で教師への夢が破れた喪失感で「どう生きていくか」悩み苦しんだ日々の中、「辛」に「一」を足せば、「幸」の文字になる」という父の一言に救われたことを明かされ、「プラス」の生き方は今でも私を助ける信条となっている」と語られました。社員の家族



県内受賞者の皆さん

おめでとうございます

全国高P連会長表彰

個人

大熊 彰子 前高P連副会長
矢田 弘 前高P連副会長

団体

県立金津高等学校PTA
県立武生商工高等学校PTA

役員表彰

入場 理 前高P連会長

からの手紙などを紹介し「会社の存続と人の成長、幸せを伴走させることが経営者の仕事。一人の百歩より百人の一步」などと自分の信念を提示されました。

閉会行事では、大会実行委員長から参加者に感謝の言葉が述べられ、次期開催地の大分県へ全国高P連旗が引き継がれました。

(敦賀気比高校PTA会長 竹中弘幸)

県教育長と高P連との懇談会

県教育長と高P連との懇談会が十月二十三日(木)に県庁大会議室にて開かれました。県教育委員会からは、藤丸教育長、松下学校教育監、廣瀬教育政策課長、遠藤教職員課長、渡邊高校教育課長、松枝保健体育課長の六名が、当連合会からは、生島会長以下十九名が参加しました。

最初に生島会長から「本日は『子どもが主役の教育の推進』のためにPTTAは何ができるか、また、学校と両輪となつて子どもたちをサポートしていくためのアドバイスなどをいただき、今後の取り組みや単Pの活動に生かしていきたいと思つています。」と挨拶がありました。

続いて藤丸教育長から「各高校が抱える課題は多種多様になつており、学校経営も十分に考えていかないとけない現状となつています。その中でPTTAの皆様方がそれぞれの学校の立場をよくご理解いただき、ご支援いただいているおかげで何とか軌道に乗つているように思つています。」



藤丸伸和教育長挨拶

本日は保護者の代表として学校に携わっている皆様のご意見をいただき、本県教育がさらに良くなるようにつなげていきたいと考えています。」と挨拶がありました。

この後、四つの話題について意見交換がありました。

福井県の教育全般について

生島会長から「福井県の教育方針、教育理念・「働き方改革」・「高校卒業後の進路選択」についての話題提供がありました。」

県教委からは「個性を引き出す教育などの方向性は引き継ぎつつ、子どもが主役の教育の推進を基本理念に位置付けている。PTTAには地域社会と学校をつなぐ架け橋役を期待している」と話がありました。働き方改革については、「各種支援員・指導員の増員や教職員Webアンケートなど県独自の対策を行い改善に努めている。また、進路選択のために進学系と職業系に分けてセミナーを開催したり、職業系学科共通の学校設定科目「ふくいの産業」を設けて、地域を担う人材の育成を図つたりしている」と説明がありました。

教育環境の整備状況について

大友副会長から「空調整備」・「教育環境における協力体制」についての話題提供がありました。

これに対し、県教委から体育館、特別教室等の空調整備計画について、「特に体育館の空調は、令和十年度夏までに全ての第一体育館に設置するよう進めている」という説明がありました。

また、「学校関連には年間三十億円余りの予算を見込んでおり、順次改修を進めている。基本的には公費負担で行うが、寄付や使用許可による設置などは学校と相談いただきたい」と話されました。

ICT教育、探究活動に関する課題や今後の取り組みについて

八木副会長から「生成AIの活用に向けた課題」・「SNS」についての話題提供がありました。

県教委からは、「情報活用能力として欠かせないものであり、利便性と懸念点を学び正しく使いこなす能力を醸成することが重要であり、文科省のガイドラインに準じた利用と「生成AIを利用する際の遵守事項」を発売し、徹底を周知している」と説明がありました。SNSについても、「依存や人権侵害に強い問題意識を持つており、学校長を通しての注意喚起や学校単位でのモラルに関する講演会の実施依頼、保護者への啓発資料の配付などを行つており、家庭内でもよく話し合つていただきたい」と話されました。

その他(メンタルヘルスケア、自転車ヘルメットについて)

岡本副会長から「いじめ・不登校の実



態」・「自転車ヘルメット着用義務化に向けて」などの話題提供がありました。

県教委からは「SC・SSWを各校に配置、対象生徒が悩みを打ち明けやすい体制づくりを進めている。積極的な認知を促し、早期発見・対応に努めるよう図つている」との回答がありました。

ヘルメット着用義務化に向けては、「高校生の安全を最優先とし、着用必須化の方針を打ち出した。本年度は猶予期間とし、生徒主体の取り組みを促しており、生徒会の取り組みや放送による呼びかけが各校では行われている。保護者の方々も命について家庭でも話し合う機会を設けていただきたい」と要望がありました。

多くの参加会長から意見や要望がありました。例年以上に盛況な懇談会となりました。まだまだ終わるにはもったいない懇談会でしたが、各校でも話題にしたいだくという事で、最後に大友副会長が謝辞を述べ、閉会となりました。

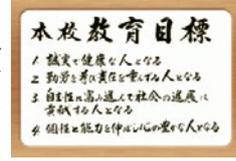
ちよと ぼじやましくす!

Introduction

道守高等学校

最高気温三十六度、七月の猛暑日に道守高校におじやましました。夏休みで生徒の姿もなくひっそりとしていました。中に入るの初めてで少しの緊張とともに訪問しました。

道守高校は、「定時制課程」と「通信制課程」に分かれています。定時制は、普通科「午前・午後」・「夜間」の三コースがあり、全日制高校と同様に生徒は月曜から金曜まで登校し一日四時間の授業を受けるそうです。校舎は教室・自習室・特別教室に体育館と、わたしの通った全日制普通高校と何ら変わりなく見えました。間帯を変えて自分の教室として使うというのには不思議な感覚でした。(さらには通信制も使用するそうです)



道守高校の教育目標 (学校HPから)

もう数十年前のことですが、自分の高校生時代を思い返すと、私は机の中に学習道具を全部つまこんだまま部活動に直行する高校生でしたから、この学校ではそんなことは許されな、ロッカーに教科書などが入りきらなくなる等、いらぬ心配をしてみました。

また、道守高校には食堂がありました。夜間コースの生徒が夕食を食べながら授業を受けることができるよう



食堂

にどの配慮からだそうです。夜間コースのある道守高校ならではですね。

さて、本題のPTA活動ですが、道守高校では「育友会」という名称で活動がおこなわれているそうです。交通安全指導(各コース登校時間三回)や学校祭での模擬店出店、卒業式への協力などをおこなっています。卒業式は年二回(九月・三月)行われる

など、全日制の行事やPTA活動とは少し異なる部分もあるように思えました。

今回、取材に行くまで定時制は四年通うものと思っていました。恥ずかしながらも私には定時制高校という「働きながら通える高校」というイメージがあまりありませんでした。しかし、大人になった今ふと考えると、一日のうち学校は半日、残りの時間は自分の時間になるというのは、仕事だけでなくやりたいことがある子どもにとっては理想的な環境といえるのではないのでしょうか。多様性を尊重する時代において、単純に「働く」ためだけでなく、多くの人の選択肢のひとつになっているのだからと思います。



交通安全指導の様子



学校祭

訪問日に取材に対応してくださったのは教頭先生でした。暑い中、「ご多忙のところ、丁寧に優しくご対応いただきまして心から感謝です！」

(福井農林高校PTA会長 浜本亜紀)

Introduction

丹生高等学校

この企画は、調査広報委員が直接「ちよとおじやま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれとは思われるものを紹介していくものです。

十月下旬、丹生郡越前町にある福井県立丹生高等学校におじやましました。

三田村正伸校長先生、松田守弘教頭先生、中西大PTA会長にご対応いただきました。

丹生高校は、古代の豪族たちが巨大な古墳群を築いた「丹生ヶ丘」に代表される古い歴史と豊かな自然に恵まれたこの地に、地元の強い要望を受けて設立された伝統校です。

本年(二〇二五年)、創立百周年を迎えることから、十二月六日(土)に創立百周年記念式典を開催、百周年に併せて制服も一新されました。



イルやデザイナーは大変好評だそうです。

記念講演会では、卒業生である田中秋桜氏(ホッケー選手)、玉村昇悟氏(野球選手)、広島東洋カープ)がお話をされる

とお聞きしました。

生徒は、校訓の「業精於勤」(学業は努力すればするほど精通するようになる)を胸に、各学年四クラス、合計三二〇名が勉学に励んでいます。クラス編成は、幅広い進路に対応できる普通クラス、大学進学を目指す特進クラス、そして中学校からの一貫教育で学力と人間力を伸ばす

Introduction

丹生高等学校

す中高一貫クラスが設けられており、生徒の夢や目標に合わせた学びが可能です。また、生徒の主体性を大切にした学校行事や地域との交流も盛んで活気にあふれています。

部活動では、全国屈指の強豪として知られるホッケー部、選抜甲子園大会出場経験がある野球部、そして感性豊かな作品を数多く生み出している全国大会常連の写真部など、文武両道を体現する部活動がそろっています。



丹生高校ホッケー部

丹生高校PTAは、これらの活動を通して成長している子どもたちのために、会長以下三名の副会長と六名の実行委員が各クラス一名の代議員と共に、委員会に分かれずに活動を行っている点が興味深く感じました。

特に、我が子と協力しての「親子ボランティア」や、地域の方々と協力して越前町役場駐車場ドライバリーパーに安全運転を呼びかける「交通安全茶屋」などの取り組みに、地域に根差した、地域に愛されている丹生高校らしさを感じることができました。

百周年記念式典を控え大変お忙しい中、おじやましました。

(鯖江高校PTA会長 三村美紀江)

キャリアガイダンス研修会

九月六日(土)、福井県高等学校PTA連合会主催の「キャリアガイダンス研修会」が県生活学習館多目的ホールにて開催され、県内各地から約百五十名のPTA会員が参加しました。

開会にあたり、県高P連の生島直樹会長が挨拶で、北信越地区高等学校PTA連合会研究大会福井大会への協力に対する感謝を述べるとともに、全国高P連三重大会参加の労いと今後の情報共有を呼びかけました。そして「本日の研修会を、子ども的人生を共に考えるきっかけとしてほしい」と話されました。



生島直樹高P連会長挨拶

その後、福井県教育委員会教育長の藤丸伸和氏を講演講師に迎え、「人生一〇〇年時代のライフデザイン」と題する講演が行われました。冒頭では、高校生を対象に行われたキャリアデザインアンケートの調査の結果を紹介し、高校生らが仕事を選ぶ際に重視しているのは「仕事内容」「職場の雰囲気」「収入の安定度」であると話されました。そのうえで、これからは社会の変化に対応し、自らのキャリアを柔軟にデザインしていく重要性を示されました。

さらに福井県の長期ビジョンとして掲げる「しあわせ先進モデル」や、「活人口一〇〇万人ふくい」を目標とした構想にも触れられました。新幹線開業を契機とした地域開発の進展により、福井県民の幸福度や自己肯定感が高まっていることを紹介し、「地域の未来を描くことと子どもたちのキャリア形成がつながっている」と指摘しました。講演は「自分の子どもにどんな人生を歩んでほしいか」を考えるグループワークを交えながら進められました。平均寿命が延び、一〇七歳まで生きる時代が来る可能性や、生成AIの進展

によって仕事のあり方が大きく変化することが語られ、「AIに代替できない人間の力を伸ばすことが教育の役割」と強調されました。

- そのために育むべき「五つの力」として、
- ①思考と行動の基礎となる学力・体力
 - ②好奇心をもって学びを深める探究力
 - ③他者と協働する共感力・対話力
 - ④ふるさとと未来と自らの将来を思い描くキャリア形成力
 - ⑤成長を続けるための挑戦力
- が示されました。これらはいずれも生成AIには代替できない、人間ならではの力であり、保護者も前向きな声掛けを心がけてほしいと呼びかけられました。

また、藤丸氏は「子どもが主役の教育」を基本理念に掲げ、生徒一人ひとりの成長を全力で支えるとともに、教職員の働き方改革や学校行事の見直し、業務効率化を進めていく方針を紹介しました。高校教育は大きく変化しており、「今の学び」の意義を理解し、挑戦と成長を温かく見守ることが必要であると強調されました。

最後に、県高P連生島会長より謝辞が述べられ、「子どもへの挑戦を応援するとともに、大人も同じように挑戦していきたい。そして子どもたちに、誰もが福井最高の笑顔をつくれるよう尽力していく」と結ばれ、盛会のうちに研修会は終了しました。



藤丸伸和氏講演

(武生商工高校PTA会長 内田真次)

キャリアガイダンス研修会 アンケート結果について

今回の研修会では、講演後に参加者を対象としたアンケート調査を行いました。(保護者五十四名・教職員二十七名回答)

感想として、保護者・教員共に、講演の内容からの「新たな気づき」や、福井の現状や未来、子どもや福井県の将来についての思いを感じることができました。

特に、子どもの将来大事だと思いうれしさを、「好奇心を持って学びを深める探究力」を上げた保護者が39%と最も多かった点と、子どもが将来どこで暮らしても良いと思う保護者(25%)と、出来れば福井に残ってほしい、帰ってきてほしい保護者(24%)が拮抗している点がとても印象に残っています。(高P連事務局)

インフォメーション

今後の行事予定

日時 令和八年一月二十四日(土)
場所 生活学習館

◆第三回理事会

午前十時半

◆各校PTA会長・担当者合同会議

午後一時半

◆PTA会長会議

午後三時

高校生総合保障制度 事故受付状況と保険金請求手続きについて

本年度も「高校生総合保障制度」につきまして、関係各位のご尽力により多くのご加入をいただき、皆さまの安心づくりに寄与できましたこと心より感謝申し上げます。

さて当事務局には保護者の皆さまから保険金のご請求についてお問い合わせを多くいただいております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続きについてご案内いたします。

1、事故受付状況について

2024年4月～2025年3月までの直近1年間の事故受付状況ですが、累計で281件お支払いがありました。代表的な内訳としては、通院補償は141件、入院補償は27件でした。その事由としては、日常生活にケガをしてみたケースが最多で、学校生活中のみに関わらず、24時間思わぬアクシデントに対し、当制度がしっかりと生徒の生活の下支えとなっていることを改めて確認できました。

それ以外にも、学校から貸与されたタブレットの破損など、他人の物を壊したり、自転車運転中に不注意から他人にケガを負わせたりした場合に補償される個人賠償責任補償についても昨年度の支払件数は17件で支払額は全体の約3割を占めます。

このように様々なアクシデントに対応出来る当制度の加入を是非ご検討ください。

2、保険金の請求手続きについて

①ケガ・病氣・賠償事故の場合
下記連絡先(012013001399)(通話料無料)・24時間受付まで、お手元にご加入者証をご用意の上、ご連絡ください。
必要書類等につきましてご案内いたします。

②中途加入に関するお問合せ先

高校生総合保障制度事務局
株式会社アイル保険センター
〒910-0003
福井県福井市松本4丁目6番15号

TEL:0776-12313419

(受付時間:9時～18時 土、日、祝日、年末年始除く)

保護者の皆様へ 2025年度版

福井県高等学校PTA連合会

適用される割引率※

15% 割引

高校生総合保障制度

ご案内 [こども総合保険+自転車総合保険]

学校の
休みの日でも

大切なお子さまを補償期間(保険期間)中、1日24時間補償します

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。

- 全プラン、学校より貸与されたタブレットを誤って破損した場合に補償されます。
- 全プラン福井県自転車条例に対応しております。

※随時中途加入を受け付けております。

個人賠償責任補償

示談交渉サービス付き ご家族全員が対象

自転車事故で生徒が加害者になってしまった場合や、誤って他人のものを壊してしまったり、他人にケガをさせてしまっ、法律上の損害賠償責任を負った場合に補償します。

傷害(ケガ)補償

学校生活だけでなく、塾や習い事など、学校が休みの日も含めて24時間補償します。

※医療費助成などによる、自己負担の有無に関わらず、お支払いの対象となります。

トラブル被害対応補償

いじめ、SNS上での誹謗中傷、ストーカーなどの被害を受けた際、弁護士・臨床心理士への相談費用や、解決のための対策費用を補償します。



学校で嫌がらせに遭い、カウンセリングを受け、弁護士へ解決方法を相談した。



SNSでの悪口の書き込みを削除させるため、弁護士に依頼した。



つきまと被害に遭い、警察に相談し防犯対策をした。

プランによって補償項目が異なる場合がありますので、詳しくはパンフレットのプラン表をご確認ください。

※割引率について:パンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。適用される割引率は前年度の加入者数等に応じて決定します。

引受保険会社: AIG損害保険株式会社